



2000年の噴火では、多くのお友だちが、避難所で暮らしていました。避難所での生活は、どんな様子だったのでしょうか。

- 避難所は、避難してきた人たちでいっぱいでした。私たちは、あいているすき間にねぶくろをしいてねました。

次の朝、私はごはんのみそ汁とつけ物を食べてテレビを見ていました。

その後、同じ避難所に避難していた友だちとトランプやゲームをしたりしていました。

次の日、体育館にたたみが運ばれてきました。昼から、お母さんたちが会議を開いて、掃除の分担を決めました。【辻警小学校 6年 前川美紗】



避難所の様子

このように避難所では、みんなが一緒に暮らしていました。おじいさんやおばあさんも一緒です。小さな子も一緒です。まず、みんなは、避難所のルールを決めました。さらに、それぞれがみんなのためにできることを考えて暮らしていました。

高校バレー部のお姉さんたちは、どうしたのでしょうか。



- 私たちは避難所で、何かできることはないかと考え、朝、トイレや大広間の清掃をすることにしました。そして運動不足のみなさんに、朝晩簡単なストレッチや肩もみをしました。特に肩もみは喜んでくれて、そのおかげで会話がはずんだりしました。そのことが、親元を離れ避難所生活をしている私たちにとってはすごくうれしいことだったのです。【虻田高校 2年 池田久恵】



「はまなす隊」の様子



避難所には、いろいろな人たちがお手伝いに来てくれました。

全国からかけつけた女性警察官（はまなす隊）は、避難している人たちのいろいろな相談にのったり、子どもたちと一緒にゲームをして遊んでくれたりしました。

このゲーム
みんなで
折って
みましょう！



話し合ってみよう！

避難所で、私たちが、みんなのためにできることは、何かあるだろうか？
例えば、低学年の子どもたちのために、何ができるだろうか？みんなで話し合ってみよう。



『降下軽石』プリニー式の噴火で噴き上げられた軽石が降下して地上に積もったもの。



このまちで私たちは、耳の聞こえない人たちと一緒に暮らしています。こうした人たちは、2000年噴火の時、どのようにしていたのでしょうか？

3月29日、「2～3日中に有珠山が噴火する」という内容のFAXが届きました。地震の数が多くなり、強い時はストーブが消え、恐怖と不安でいっぱいになりました。一人で家にいると、情報が伝わらず、オロオロするばかりでした。音のない世界に生きている私たちに情報はすぐには伝わらず、どうしてよいのか、逃げ場を迷ってしまいます。

【ろうあ協会会員 伊達市 山本時枝さん】

耳の聞こえない人たちは、避難を呼びかけるラジオや防災無線が聞こえません。まわりに住むみなさんがお家を訪ねて、一緒に避難するとよいでしょう。

また、避難後の避難所の生活については、次のように日記に記されています。

3月30日伊達小学校のプレイルームに避難した。手話通訳者が派遣され、まわりの状態や噴火の様子などを知ることができた。

4月2日FAXが使えるようになった。テレビの文字放送による情報がわかりやすかった。

4月7日団体生活に欠かせないルールができてくる。私はトイレを掃除したが、他のろうあ者と通訳者も自ら掃除していた。自治会ができて、班ができて、約束ごとをつくることになった。大勢の団体生活もはじめてで健聴者と一緒に暮らす体験は大変勉強になりました。

【ろうあ協会会員 伊達市 山本英男さん】



耳の聞こえない人たちは、避難所で苦労しながらも、他の人たちと協力していました。避難所での暮らしによって、耳の聞こえない人も、聞こえる人も、お互いのことをより理解できるようになったことでしょう。

目の見えない人や足の悪い人たちの避難

目の見えない人や足の悪い人は、どのように避難したのでしょうか？また、こうした人々は普段どのように暮らしているのでしょうか。



目の見えない人のための地図。
道路をひもで示している。

やってみよう！

こうした人たちの苦勞を知るために、安全な場所で目隠しをして歩いてみるなどしてみましよう。

火山用語

『プリニー式噴火』火口から大量の軽石を上空に噴き上げる噴火。



2000年噴火の直後、避難所では、大勢の人が一緒に生活をしていました。その後、家族ごとに、仮設住宅へ引っ越しが行なわれました。

それでは、仮設住宅とは、どのような所だったのでしょ。



私は、仮設に入り始めてから8ヶ月たちました。最初、入ってみると思ったよりもきれいで広がったです。テレビ、冷蔵庫、洗濯機など必要な物はそろっていました。でも、私にとっては、2つの部屋じゃ狭いと思いました。ベットもいるし、遊ぶ時も狭いし、テーブルを置いたらもっと狭くなります。さらに困ったことは、寒かったらストーブをつけるけど、つけて数分後にすぐに部屋の回りが暑くなって、ストーブを消すと寒くなります。

【河爺湖温泉中学校 2年 五十君由香】

仮設住宅での生活は、住宅らしい建物の中の生活なので、避難所よりも快適です。他の被災地では、仮設住宅を十分に建設できずに、苦しい思いをした多くの人がありました。

しかし、仮設住宅の生活でも様々な苦労があったようです。例えば、自分の家や避難所での生活とは違って、近所になじみの方がいなくなってしまった人もいました。こうした人の中には、さみしく感じた人もいます。みなさんが訪ねていって、お話をしたら心強く思った方もいたかもしれません。



様子を、見て来てくれると助かるのじゃがな

歩くことが不自由なものさな、車もなくて重い物が不便じゃ



仮設住宅にはどんな工夫がされているのだろう？

かぜつじょうたく
 仮設住宅には、体の不自由な方も暮らしています。
 そうした人たちのために、工夫してつくられた仮設住宅もあります。

車イスだから
 段差がないと
 助かるわね！



車イスで上り下りできるよう坂(スロープ)になっている



トイレにはつかまる手すりがある



お年より用の仮設住宅の間取り

話し合ってみよう!

いろいろな人たちの暮らす仮設住宅にはどんな工夫があったらよいだろう。また、私たちにもできる工夫はないだろうか？



月浦地区の仮設住宅



『マグマ』地下で岩がとけたもの。有珠山のマグマは約900度です。



一番の楽しみは、「FMレイトピア」だった。毎日12時になるのが待ち遠しくて、「ああ、こういうことがあるんだ。そういうことになっているんだ」って、本当に楽しみだった。



みなさんは、「FMレイトピア」を、聞いたことがありますか？

FMレイトピアは、2000年^{ふんか}噴火^{ころ}の頃に放送をしていたラジオ局です。FMレイトピアの放送局では、みなさんのお友だちも^{かつやく}活躍していました。



放送スタッフの人たち

FMLレイクピア

FMLレイクピアは、防災のために役立ちました。例えば、一時帰宅の中止を素早くみんなに知らせました。また、「通れる道路はどこか?」「お風呂はどこで入れるか?」などの身近な生活情報も知らせていました。噴火の頃には、まちの人々の生活の様子が、いつもと大きく変わったため、こうした情報が必要だったのです。

このように、FMLレイクピアは、噴火の頃、まちの人たちのために、まちの人たちがつくったラジオ局でした。



FMLレイクピア TIME TABLE

E	
10:00	情報生ワイド サンデーレイクピア あぶたのれい合センター内の「FMLレイクピア」スタジオをスタジオのみなさんに開放した。オーブンアライト番組。スタジオを開放したみなさんにちとんを貸付していただきニコニコパーティーがプログラム。
10:30	寂新湖・ひと・むかし とゆきさんの朝ほりちとん、栗火とゆき。
11:30	Sunday School Days 中学生と小学生が自分通で作る番組。
18:30	781さろん FMLレイクピアの番組作りについて詳しくは仲間達の番組「週刊の夜更け」を協議をしてしよう!

FMLレイクピア(76.1)番組表

FMLレイクピアの番組表

	月	火	水	木	金	土	日
12:00	FMLレイクピア お昼の情報局(生)					「土曜ふれあい広場」 情報生ワイド	「サンデーレイクピア」 情報生ワイド
13:00	ノンストップ・ミュージックタイム パートI						
14:00	あぶたタウンボイス						
15:00						あぶたっぺ CLUB	洞爺湖 ひと・むかし
16:00	ノンストップ・ミュージックタイム パートII						
17:00	FMLレイクピア 夕方情報局(生)					先生の週末	Sunday Schooldays
18:00						レイクサイド の週間	761サロン
19:00							

考えてみよう!

噴火の時、知りたいことは何だろう。また、まちの人に伝えたいことは何だろう。



『空振』火口で爆発が起きたり、噴気が勢いよく出たりした時に、火口のまわりの空気が急にゆらされます。その時できた波が空気を伝わってきたものが、空振です。有珠山では水蒸気爆発による噴火の後期にひんぱんに空振が発生することがありますが特に危険なことの予兆ではありません。



噴火の頃、危ない海域で短い間だけ採獲を許されて、作業に向かう船

噴火湾では、たくさんの海産物が採れます。なかでもホタテは、日本のあちこちに送られて、みんなに喜ばれています。ところが、2000年噴火の時は、海の上も危ないので、船を出せなくて困ったことになりました。



噴火の頃には、ホタテの耳づりのための作業が始まりました。耳づりとは、子どものホタテの殻に穴をあけて縄を通し、海中につるす作業のことです。こうしておけば、冬には大きくなったホタテを出荷できます。ところが、その年は噴火のために、作業の船を出せなくなってしまいました。

4月下旬になって、ようやく耳づりができるようになりました。しかし、作業には多くの人手がかかります。ましてその年は、作業が遅れていたため、夫婦だけでは仕事が進みません。そんなとき、まちの人たちが助けてくれました。避難所から手伝いに来てくれたのです。また、安全に作業ができるようにと、ヘリコプターなどで見守ってもらいました。

こうして、耳づりの作業を終えることができました。しかし、1ヶ月以上も作業が遅れてしまったので、冬になってもホタテはあまり大きくなりませんでした。「貝柱が小さいね」と、お客さんに言われてしまうこともありました。



【虻田町の漁港で働いている中野鞠枝さん】



みんなが力をあわせてがんばりました。

噴火では物や家がこわれるだけではなくありません。まちの人たちのお仕事にも、大きな影響がありました。酪農家の人たちには、どのような苦勞と工夫があったのでしょうか。

地震がひどくなったので、私たちは姉の家に避難しました。しかし、牛は連れていけません。それで毎日朝と夕方に、姉の家から通って、乳をしほっていました。しかし、しばらくすると、牛舎がこわれたかと思うほどに、地面が盛り上がってきました。このまま水道がこわれて水が出なくなると、牛を死なせてしまいます。農協の人に相談して、豊浦のあいている牛舎を見つけて借りることができました。



避難した牛

65頭の牛を、農協や役場の人たちに手伝ってもらいながら、トラックで避難させました。

【釧田町で牧場を営んでいる杉上義弘さん】

このように噴火に対して、みんなで協力しながら、いろいろな工夫をしてがんばりました。

しかし、工夫だけではどうにもならないこともあります。例えば、噴火の後、ひどく傾いてしまった田んぼでは、もうお米をつくることができません。農業や漁業の人たちは、自然に近い場所、有珠山のふもとに根づいた仕事をしています。ですから、噴火の時も被害をさげられず、大変なのです。

聞いてみよう!

お店や工場で働く人たちには、噴火の時、どんな苦勞があったのだろう。



『火山性微動』 マグマが火道を通る時などに、まわりの岩も少しゆらされます。火山性微動がたくさん起き始めた時は、マグマが元気に動き始めた時なので、噴火が近いうちに起きる可能性があります。



2000年の噴火で、みなさんのまちの人たちは、いろいろと困りました。けれども、困ったのは、みなさんのまちの人だけではありませんでした。胆振の他のまちでも多くの人たちが、噴火によって困っていたのです。

毎年、北海道には、東京や大阪など遠くからたくさんの人たちが、観光に訪れています。しかし、東京などの人は、北海道の地理をあまり知りません。ですから、洞爺湖温泉と登別温泉とがどのくらい離れているか知りません。それで、登別温泉も噴火で危険な所と誤解されて、お客さんが来なくなってしまったのです。しかも、一度来なくなってしまったお客さんは、なかなかもどってきません。



そこで、胆振のまちの人たちはいろいろと工夫をしました。例えば、遠くの人たちに、胆振のことを紹介したはがきを1万枚も送りました。また、胆振の観光ルートを描いた地図をつかったり、ポスターを駅に貼ったりしました。さらに、東京や大阪に出かけて、温泉の入浴剤などをくばりながら、胆振のことを紹介したのです。



観光のまちの人々

観光に訪れるお客さんが減ってしまうと、ホテルや旅館の人たちは、もちろん困ります。しかし、それだけではありません。ホテルでは、たくさんのお料理を作るので、野菜やお肉をホテルに売っていた人たちも困るのです。他にも、ホテルのシーツや浴衣を洗濯する人たちも、仕事が減ってしまいます。



新聞にもいろいろと報じられました。

調べてみよう!

ホテルなどが閉まっていたために、困った人たちが他にもたくさんいました。他にどのような困ったことがあったのか調べてみよう。



『溶岩ドーム』 噴火の時に火口から地表に出たマグマが、下へ流れずに、そのまま火口のまわりに盛り上がり固まったもの。昭和火山は、溶岩ドームです。

2000年^{ふんか}噴火の時には、道路や鉄道がいろんな所でこわれてしまいました。



国道の上にてきた火口



噴石に埋まった道路



泥流で流された橋



地殻変動でガタガタになった道路



聞いてみよう!



みなさんのお家では、道路や鉄道が止まって、どんな困った^{こま}ことがありましたか。お父さんやお母さんに聞いてみましょう。

道路や鉄道が使えない!

噴火の頃、道路や鉄道が使えなくなりました。道路や鉄道がこわれてしまったためです。また、噴火や泥流の危険がある時にも、通ることができませんでした。



無人となった駅



地殻変動で曲がった線路

例えば、国道453号は2000年の4月中旬まで、国道37号は5月下旬まで使えませんでした。230号は、その下で火口が開いたため、他の所に道路をつくることになりました。また、鉄道も4月下旬まで止まっていた。そして、6月上旬までは、夜は運転されなかったり、特急が走れなかったりしていました。

このように交通が止まっていたためいろいろと不便なことがありました。例えば、遠い学校に通っていたお兄さんたちが困っていました。豊浦から室蘭の高校に通っていた高校生は、臨時バスで通っていました。しかし、下校のバスの出る時間が午後4時半と早かったために、部活動をあまりすることができませんでした。



列車の代わりに走っていたバス



『噴石』噴火の時に、噴き出したマグマが冷えて固まった石や、噴き飛ばされた火口のまわりの岩のかけらのこと。大きいものは数十cmを超えることもあるので、あたると大けがをするので危険です。

2000年3月に噴火が始まると、石が飛んできたり、地面が動いて道路にひびが入ったりして危険なため、あちこちの道路が通行止めになりました。なかでも国道230号は真下から噴火が起きたため、完全にこわれて使えなくなりました。

そこで、近くの道の幅を広げる工事や、冬道でも安全に通れるように路面を電気で温める(ロードヒーティング)工事などを大急ぎで行いました。



道路に積もった灰を取り除いている様子

有珠山のまわりでは、列車も走れなくなったので、列車の代わりにバスが走っていました。また、札幌から函館に物を運ぼうとしても、南回り(室蘭回り)の線路が通れなくなっていました。そこで、北回り(小樽回り)でたくさんの物を運べるように線路を強くする工事をして、物を運びました。

考えてみよう!

どこからどこにつながる道があったら、便利で安全だろうか。

有珠山が山頂で噴火した場合や、山ろくのどこかで噴火した場合など、いろいろ考えてみよう。

道路や鉄道の復旧工事

交通は、その後だんだんと復旧していきました。鉄道では、線路を引きなおすなどの工事をして、まず4月3日に東室蘭から伊達紋別の間と長万別～豊浦の間で列車が走り始めました。そして、4月27日には全ての区間で列車が通れるようになりました。



線路の強化工事



線路の復旧工事



工事は、夜あそくまで行われた

道路も、ひび割れを直すなどたくさんの工事によって、だんだんと通れるようになっていきました。そして安全な場所にトンネルを掘って、新しい国道230号をつくることになりました。また、トンネルの入り口に避難できる所をつくります。



新しい国道230号のトンネル



『軽石』噴火の時に、空に飛び出したマグマが、冷えて固まって石になったもの。空に飛び出したマグマは炭酸飲料みたいに泡だっているの、冷えて固まった軽石も、スポンジのように中が穴だらけになっています。だから、「軽石」は水に浮くほど軽いのです。



2000年噴火の頃には、家を離れたり、まちの姿が変わってしまったり、いろいろと大変なことが起こりました。そんな時、人はいろいろなことを思い悩みます。

次の2つの作文は、同じ1人のお友だちが書いたものです。



私が洞爺湖温泉に帰ってきてから、もう1年もたちました。

この1年、いろいろなことがありました。たとえば、はじめて温泉で1人だった時、こわくて…、さみしくて… ったことがありました。あと、かえしてほしい物やよみがえってほしい物がありました。

でも今は、前とちがって、友だちもいっぱいいるし、前より噴火がおさまってきているから、私は大じょうぶです。

でも、思い出すだけで涙が出ます。でも、今の噴火のことで涙を出したら、これよりもっとひどくて、まだ帰れないところなんて、もっともっと、つらいんですよね。最後に今、噴火しているところに一言「私たちががんばるから、みんなもがんばって噴火に負けないで…。」



噴火の前にじしんがあつて、そのじしんを体がおぼえてしまって、じしんもきてないのにじしんがきてるように感じる。ねる時もなぜかゆれて感じる。

もういやです。じしんをわすれたいです。

みんなにそうだとすると、わらってすませてしまう。

こっちは、わらえない。たすけてほしいけど、無理…。



本当の気持ち



どちらの気持ちも、ひとりの子どもの中にある本当の気持ちです。

ある時は、こわく悲しい気持ちになり、ある時は、がんばろうと思う。そうした様々な思いをすることは、自然なことです。変なことでも、^は恥ずかしいことでもありません。

そんな時には、お父さんやお母さん、学校の先生などに、思っていることを素直に伝えましょう。つらいこと、悲しいこと、あるいは、そんな中でも楽しかったことなど、無理に我慢することなく、お話をしたり文章にしたりしてみましょう。

大人も子どもと同じように、つらい時には悲しい気持ちになるものです。ですから、みなさんの気持ちを、きっと分かってくれます。みなさんのことを、みんなが見守っています。



さうめー。
がまんしないでね

なんでも
お父さんお母さん、
学校の先生にも
相談しようよ



『岩屑なだれ』不安定となった火山体の一部が崩れ落ちることにより発生する岩のなだれ。重い岩などが空気によって速くスピードで流れるので、大きなはかい力があります。